第59回国立大学図書館協会総会ワークショップA 議事要旨

日 時：平成24年6月21日（木）15時～17時30分
会 場：ANAクラウンプラザホテル神戸 ザ・ボールルーム
テ ー マ：大学図書館の教育・学習支援機能の強化について
司 会：富永 一登（広島大学図書館長）
司会補助：甲斐 重武（広島大学図書館副図書館長）
記 録：田中 俊二（鳥取大学学術情報部図書館情報課長）
田中 由紀子（九州大学附属図書館伊都地区図書課長）

第1部

【事例報告】

1. 東島 清 大阪大学理事・副学長（教育担当）、附属図書館長から「教育担当理事として期待する大学図書館の教育支援」と題して、学生の学修のあり方の変化、大学及び図書館の役割の変化、教員に期待するもの、図書館のこれからの活用について報告が行われた。
2. 杉田茂樹 小樽商科大学学術情報課長から「クラス・ライブラリアン（学年担任司書制）」と題して、学生との接点を作る取り組みとして海外の事例の紹介、学年担任司書制による活動及び北海道内の大学図書館と協力して行う職員プロデュースの蔵書展について報告が行われた。
3. 渡部幹雄 和歌山大学附属図書館長から「情報リテラシー教育を担当する特任助教の配置～本の倉庫からの脱却と『クロスカル図書館』を目指して～」と題して、特任助教を配置し、図書館改革と改装を同時に進めている取り組みについて報告が行われた。
4. 舟本幸福 徳島大学情報部学術情報サービス課長から「学習支援のための地域的な協力事業」と題して、国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会における利用支援グループの活動について報告が行われた。

第2部

【ディスカッション】

事例報告を踏まえ、報告者4名及び参加者により、ディスカッションが行われた。主な質問・意見は次のとおりであった。

- 教員の意識改革に、組織的なFD（ファカルティ・ディベロップメント）が必須であるが、FDについて図書館がイニシアティブをとっていくべきか。
 - ・集中型のワークショップ形式のFDを実施して、学生との対話型授業あるいはワークショップ型の授業を行える教員を増やしていきたい。図書館も参加して自学自習を促す授業法と図書館のリンクということで役割を果たして欲しい。
- ラーニングコモンズは、どのような教育・研究分野が有効か。
 - ・書籍とインターネットの両方を使って情報を集める場所として図書館があり、その中に

おけるラーニングコモンズが非常に重要な役割を占める。

- 学年担任司書という新たな役割を受入れるためのモチベーションをどう与えたのか。
 - ・研究室訪問活動を進め、教員と対面することの面白さを体感してきたので、あまり抵抗がなかった。本務は、クラスライブラリアン・リエゾンライブラリアンであり、通常業務よりもこちらに力を注ぐことを確認した。問題点としては、学年別に特化した情報提供をひねり出していかなければならない。
- 特任助教の役割や今後のキャリア形成について
 - ・レファレンスコーナーに時間を決めて座っている。また、改革のワーキンググループに参加し、リーダーとして関わっている。
- 事務のスクラップ&ビルドにはどのように取り組んできたか。
 - ・各フロア、メリハリの効いた空間にするために、今までの固定観念にとらわれず、利用実態に照らして業務量を考え、精査しながら仕事を考えていきたい。
- 情報リテラシーと専門教育とのリンケージをどのように図っていくか。
 - ・図書館として何が出来るか日々説明している。即効性はないが、コラボレーションで事業展開するなど、少しずつ輪を広げていくことを考えている。
- 学習サポーターの配置をどういう形で行うのが良いか。
 - ・理想は開館中ずっと配置することだが、短時間でも、出来る範囲でやっていくしかない。
- 24時間開館は、利用者サービス向上につながるか。会議ではどのような意見が出たか。
 - ・24時間開館実施の際に、費用対効果、防犯面セキュリティ関係を考えなければならない。特定少数の利用者のために本当に必要なのか。
- 学生から図書館への協力の申し入れ、新しいアイデアの提案などがあるか。
 - ・小樽商大では、Facebook 講習生による図書館活性化についてのグループディスカッションが行われ、意見が多く出された。
 - ・和歌山大では、学生も一緒になって図書館づくりに関わっていく道筋を考えて行きたい。
- 静岡、金沢、名古屋の3大学における学習支援の協働化についての報告
 - ・3大学で協定を結び、学習支援促進のためのライブラリアン育成事業を連携して実施することを計画中である。また、教員を含む7名の職員で海外調査を行い、報告書を作成中である。
- 千葉大学の新しい取り組みについての報告
 - ・昨年、アカデミックリンクセンターが発足して、図書館的な機能をベースとした新たな学習環境の構築、アクティブ・ラーニングを積極的に行う学生の育成、考える学生の創造を旗印として取り組んでいる。

まとめ

司会者から、協会において教育学習支援検討特別委員会が設置され、新たなニーズの調査・実践例を全国の図書館が共有し、各図書館が活かせる形を共同で作り上げていく、教員と職員との不断の交流が具体策を作り上げていく契機となり、これらの活動が全国規模で展開されていくことを期待したい、という旨のまとめが述べられ、ワークショップを終了した。